

## 図書館とがん相談支援センター連携プロジェクトについて

国立がん研究センターがん対策情報センター  
八巻 知香子

がんは2人1人、  
でも、なっちはじめて...

- 「頭は真っ白」になった
- 「がん」はもう治らない？
- 病院のペースで治療が進んでいく...、本当にこれでいいの？
- これを飲めばがんが消えた！ 本当？



がんについて正しい情報が必要とされている

情報がまだ届いていない、困っている人がいる

## がん相談支援センターとは...

全国に設置された、がんの相談窓口

「がん診療連携拠点病院」、「小児がん拠点病院」  
「地域がん診療病院」に設置されている



困ったことや不安なことがあれば

**がん相談支援センター**

にご連絡ください

2006年2月に誕生！

## がん診療連携拠点病院

全国どこでも質の高いがん医療が受けられるように  
厚生労働大臣が指定した施設。

がん診療連携拠点病院 427施設  
2017/01

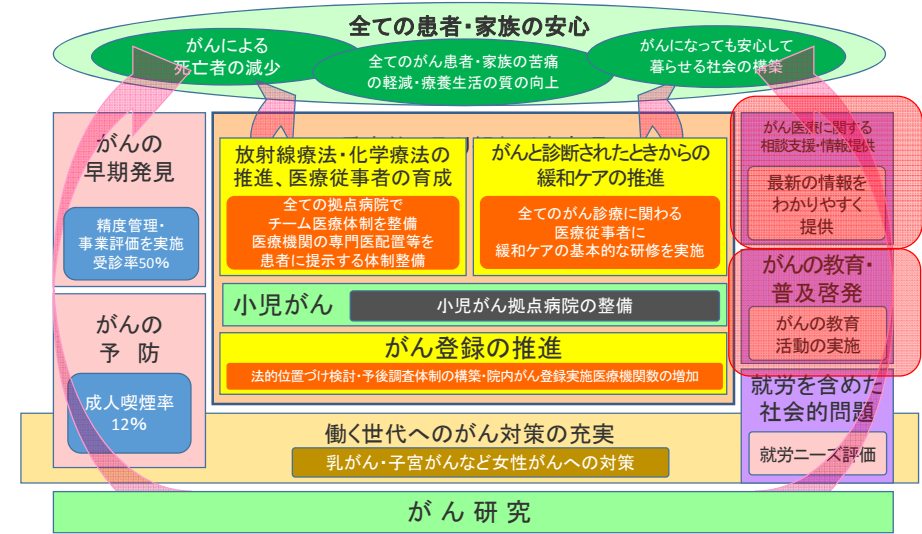


第2期

# がん対策推進基本計画

がん対策基本法成立  
(成立 平成18年6月 施行 平成19年4月)  
第1期 がん対策推進基本計画  
(施行 平成19年6月)  
第2期 がん対策推進基本計画  
(施行 平成24年6月)

・ 5～10年間の国としてのがん対策のマスタープラン



がんの検査・治療・副作用

- 自分のがんや治療について詳しく知りたい
- 担当医から提案された以外の治療法がないか知りたい
- セカンドオピニオンを受けたいが、どこに行けばよいのか

医療者とのコミュニケーション

- 担当医の説明が難しい
- 医療者に自分の疑問や希望をうまく伝えられない
- 何を聞けばよいかわからない

経済的負担と支援について

- 活用できる助成・支援制度、介護・福祉サービスを知りたい
- 介護保険の手続きを知りたい
- 仕事や育児、家事のことで困っている

療養生活の過ごし方

- 治療の副作用や合併症と上手に付き合いたい
- 自宅で療養したい

社会との関わり

- 病気について、職場や学校にどのように伝えればよいのか
- 仕事を続けながらの治療はできるか

家族との関わり

- 家族にどう話していかわからない
- 家族の悩みも相談したい

緩和ケア

- 地域で緩和ケアを受けられる病院はあるか
- 治療を続けながら緩和ケアを受けるにはどうしたらいいか

心のこと

- 気持ちが落ち込んでつらい
- 思いを聞いてもらいたい

・先生のいったことが理解できない

・何を聞いたらいいかわからない

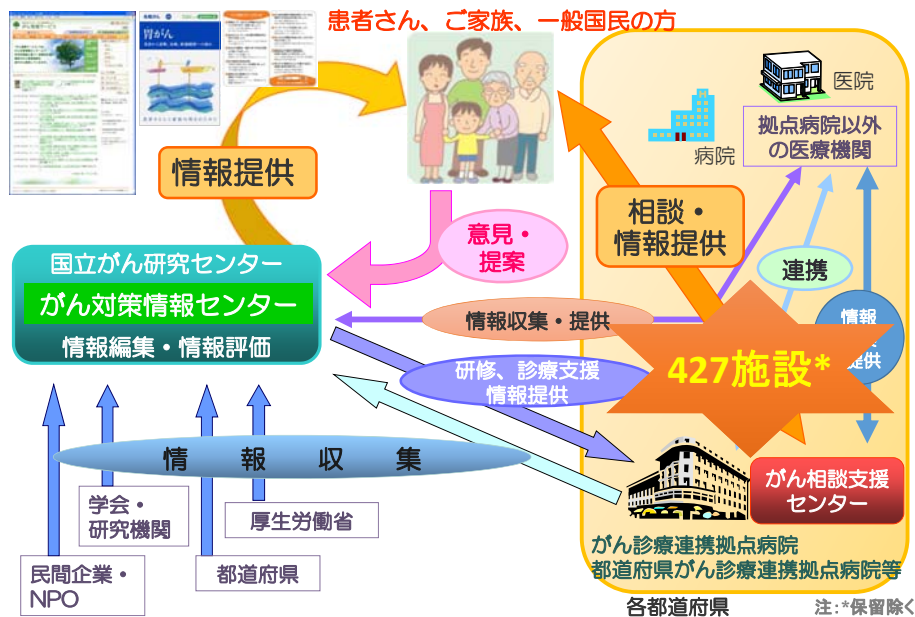
・何から整理したらいいかわからない

・何から決めたらいいかわからない

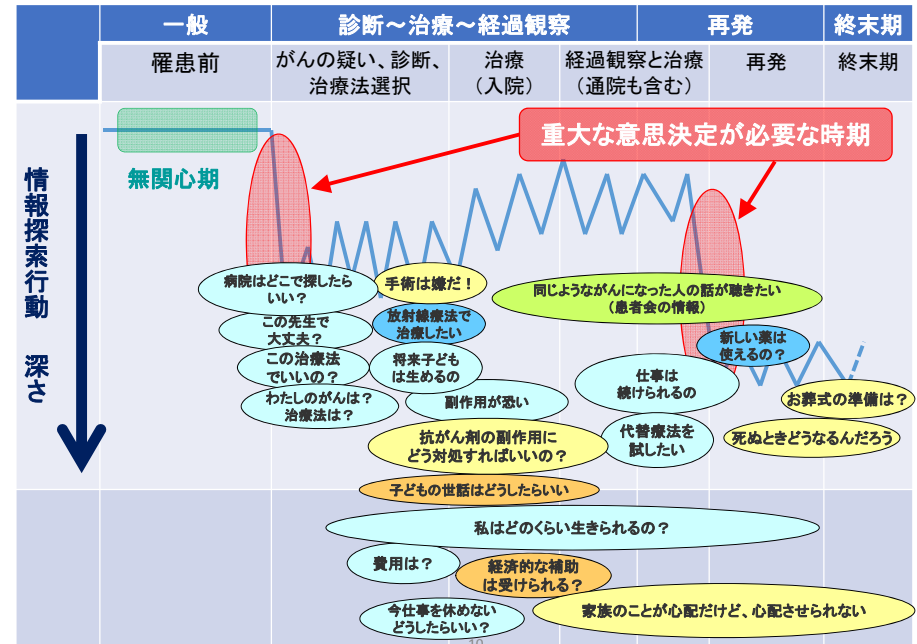
・何に納得していないかわからない

...

## 現在進められている日本のがん情報提供ネットワーク



## 人の医療情報に対する関心の程度と情報探索行動



国立がん研究センターの包括的連携に関する協定書の締結を通しての企業連携等によるがん情報の普及啓発ルートの拡大

対象者	一般	診断～治療～経過観察			再発	終末期
	罹患前	がんの疑い、診断、治療法選択	治療(入院)	経過観察と治療(通院も含む)	再発	終末期
患者本人・家族	患者必携 がんになったら手にとるガイド 別冊「わたしの療養手帳」	各種がんシリーズ				
職域・友人・社会	社会とがんシリーズ	NCCIによる普及啓発先として「弱い領域」				

がんの情報普及啓発が難しいところを連携によりカバー

**■ 企業との連携**

- がんの情報普及に関心をもち企業との協働で、がん相談支援センターのチラシ、がんブックの作成・配布、地域相談支援フォーラムへの後援等によるがん情報普及啓発を実施 (2011年～)

**■ 点字図書館との連携**

- 堺市立健康福祉プラザ視覚・聴覚障害者センターと協働で、視覚障害をはじめとする障害のある人に向けた情報を翻訳、普及させる (2012年～)

**■ 公共図書館との連携**

- 公共図書館1981館へ「がんの冊子 39種類」の配布(2009年)
- 文科研(代表者: 田村→池谷)、国がん開発費(同: 高山)による図書館と医療機関の連携に関する検討(2012年～)
- JSTネットワーク事業によるがん情報普及のための医療・福祉・図書館の連携プロジェクト(2014年～)



「滋賀県がん対策推進計画」平成25年3月5日 がん医療に関する相談支援および情報提供

施策の方向

○がん相談支援センターの利用者の増加と機能向上

- がん診療連携拠点病院等は、主治医が患者にがん相談支援センターの案内をするといった院内連携システムを構築します。
- がん診療連携拠点病院は、関係機関の協力を得て、相談支援センターの周知を図るためのポスターや冊子を掲示、配布し、周知を図ります。
- 相談支援センターは、院内および地域の医療従事者ならびに医療従事者以外の関係者(例: ウィッグ調整、リハビリメイク等を行う理美容師)の協力を得て、がん患者やその家族などからの相談に対応します。また、外国籍住民からの相談にも配慮します。
- 相談支援センターは、国立がん研究センターやがん診療連携協議会が実施する研修への参加や、他の相談支援センターとの情報交換により、相談体制の充実に努めます。

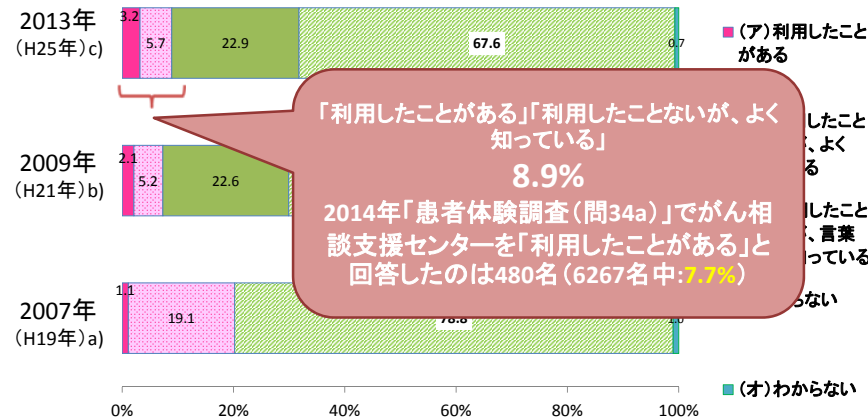
⑤ 相談支援センターは、県民に認知されるよう、市町・県立図書館など公共施設との連携を図り、県民が容易に情報を入手できる場所の拡充を行います。

5年ごとに改訂

■ 国: 2017年6月

■ 都道府県: 2018年度中

一般市民の「相談支援センター」の認知度 経年推移



「利用したことがある」「利用したことがないが、よく知っている」  
8.9%  
2014年「患者体験調査(問34a)」でがん相談支援センターを「利用したことがある」と回答したのは480名(6267名中:7.7%)

独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター  
がん情報サービス ganjoho.jp

このサイトの使い方 お問い合わせ サイトマップ

用語集 検索

一般の方へ 医療関係者の方へ がん診療連携拠点病院の方へ

各種がんの解説 予防と検診 診断・治療方法 がんとうき合う 統計 冊子・動画・資料 病院を探す

TOP > 冊子・動画・資料 > 音訳資料など(視覚障害などのある方向けの情報提供) > 点字図書館、公共図書館、がん診療連携拠点病院などで利用できる点字・音声図書と利用方法

冊子・動画・資料

- 患者必携
- ちらし・冊子見本版
- がんの冊子

【デジタル録音図書(DAISY)版】  
がんになったら手にとるガイド  
ダウンロード

視覚障害をはじめとする障害のある人に向けたがん情報点訳・音訳資料作成支援について

国立がん研究センターがん対策情報センターと堺市立健康福祉プラザ視覚・聴覚障害者センターは、視覚障害をはじめとする障害のある人に向けた情報普及に向けた協定に基づき、堺市立健康福祉プラザ視覚・聴覚障害者センターが加盟する全国視覚障害者情報協議会等の協力も得ながら障害のある方にもがん情報を届けていくための取り組みを進めています。【協定締結 2012年10月】

a) 全国20歳以上の者、層化2段無作為抽出法にて、個別面接聴取により実施。3000人抽出、有効回収数1,767人(58.9%)  
b) 全国20歳以上の者、層化2段無作為抽出法にて、個別面接聴取により実施。3000人抽出、有効回収数1,935人(64.5%)  
c) 全国20歳以上の者、層化副次(3段)無作為抽出法にて、個別面接聴取により実施。4000人抽出、有効回収数1,233人(30.8%)  
注) H19年世論調査では、(イ)「利用したことはないが、知っている」となっている。また(ウ)「利用したことはないが、ことばだけは知っている」の選択肢はない  
出典 a) がん対策に関する世論調査(平成19年9月調査)・内閣府大臣官房政府広報室 http://www8.cao.go.jp/survey/h19/h19-gantaisaku/index.html  
b) がん対策に関する世論調査(平成21年9月調査)・内閣府大臣官房政府広報室 http://www8.cao.go.jp/survey/h21/h21-gantaisaku/index.html

## 北日本地域でのがん相談支援センター PRイベント



十和田(青森)



福島



山形



青森



南会津(福島)



青森



秋田



秋田



宮城



札幌(北海道)



由利(秋田)

## 図書館と医療機関、福祉（行政）との連携による がん情報を伝えるための試み どう伝えるか、どう伝わるか

- 映画+ブックトーク+寸劇 ←ストーリーと共に（逗子市立図書館）
- 講演会+がん検診体験 ←触る・味わうことで（堺市点字図書館）
  - 乳がんの触診用モデルを触ってみる・大腸がん検診（ねんどの便で）疑似体験・胃がん検診時のバリウム・発泡剤の味見
- ブックdeトーク寸劇 ←本に投影して語る（堺市点字図書館）



がん情報普及のための医療・福祉・図書館の連携プロジェクト  
<http://www.ncc.go.jp/jp/cis/project/pub-pt-lib/index.html>

## がん相談の「空白」をなくしたい

東北ブロック がん相談支援フォーラム  
2014年7月26日 at仙台

“医療の空白はどこの県にもあり、それを直接埋めることは難しいが、相談の空白をなくすことを目指したい”



- 多くの都道府県に、医療過疎地域がある（中山間部、沿岸部、離島など）
- 特に北日本は各都県の面積が広い
- 拠点病院までが極めて遠い地域も  
⇔ ほぼすべての地域に図書館がある

ぜひ、その地域や担当者の感覚にあう、無理なく楽しめるアイデアと仲間のつながりを持ち帰ってください。